

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 88

学校名・団体名	檀原市立畝傍中学校
HPアドレス	なし
コース	教育支援
活動・研究 テーマ	自分自身にある障がい者に対する差別意識を考 える
〈活動・研究の意義、目的〉 本校では、昨年度「ガイジ」発言及び「障がい者」に関わる問題発言が、1年2件、2年1件、3年1件である。1年生の学年で「障がい者」問題や「ガイジ」発言に対する取組が、毎年行なわれるようになっている。その中で子どもの発言に、教員がより敏感に対応できるようになり、まわりの生徒のまちがった発言を指摘できるようになった生徒も増えてきている。この「ガイジ」発言については、各学年会議でも確認しながら、必ず、すぐ近くにいた教員か、担任または人推教員等で、対象の生徒と話し込むようにしている。深刻な発言の場合は、必ず、家庭訪問で保護者と話し込みも行なわれ実態もある。 昨年度3年生の3学期に、この発言についての指摘があった。もともと人をばかにしたり、見下げる場面で使われることの多いこの発言は、障がい者問題についての学習が進み、上級の学年に進むにつれて、学級集団がまとまり、使われなくなっていく。にも関わらず、3年のこの時期に出てくるといえるのは、社会の中に温存している要因も強く感じる。大規模な教職員の世代交代が進んでいる時ではあるが、そうした背景にまけない、そうした発言に怒りの感情がもてる教員の感性をみがいていく必要性も感じる。	

<活動・研究報告>

- (1) 対象者 1年生 (177名)
(2) 教科 学活・道徳・総合
(3) ねらい 人権・平和・環境について正しくとらえ、身のまわりの差別に気づき、学級集団の中で解決しようとする力をつける。地域や身近にある問題と関わり、授業だけにの取組にとどまらず、自分たちの生活と結びつけ線として人権感覚を培う。

(4) 活動の特色

- ① 障がいを持たれている人の講演会を通して、障がいを持つ人に対して抱いていた自分自身の固定的なイメージを認識し、偏見をなくしていく（違いを受け入れられるように）
- ② 全ての人が住みやすい社会とは何かを考えさせる。そして、そのために必要なことも考えさせる
- ③ 障がいを持つ人を含む社会の様々な人と信頼関係を築こうとする姿勢を育てる
- ④ 校内のバリアフリー化に向け何ができるか考えさせる。

(5) 活動報告

6/6(火) ①「障がい」についてのイメージ。

「つらい」「かわいそう」などマイナスの意見が多く出るなか、「パラリンピック」「大変なこともあるが、頑張っている人もいる」などの意見も出ていた。

6/8(木) ②山本篤さん紹介・感想、質問を出し合おう。



◎山本篤さん（パラリンピックメダリスト）
2000年 高校2年、バイク事故でふともも切断
2002年 陸上競技スタート
2008年 北京パラリンピック
(走り幅跳び 銀メダル)
2016年 リオパラリンピック
(走り幅跳び 銀メダル)
(4×100mリレー 銅メダル)
自己ベスト 100m走 12秒61 (日本記録)
走り幅跳び 6m62 (日本記録)

6/15(木) ③2・3限 山本篤さん講演

4限 山本篤さん講演感想+メッセージ

山本さんの体験談を聴き、生徒からのたくさんの質問に答えていただいた。「足を切断して、多くのことが良い方向に変わっていった」という山本さんの前向きな言葉に生徒たちも刺激を受けていた。

6/16(金) ④感想・意見発表会

6/20(火) ⑤ちがいを認め合う (トマトとメロン)

相田みつをさんの「トマトとメロン」の詩を資料として、一人ひとりちがっていてあたりまえであり、そのちがいこそが一人ひとりの良さであることを認め合う授業をした。

6/22(木) ⑥周りの人に対して、自分に対して何ができるのか。まとめ。

7/4(火) ⑦あおぞら教室に入級する生徒の母からの手紙

2018/1/22(月)・25(木) 命の学習①

栄養教諭の先生から、「食」について学ぶ授業も行った。「1.17命を考える」「命のはじまり—Happy Birthday—」「いのちをいただく」紙芝居 VTR「天国のたかしくん」「87歳の助産師×大島優子」なども使って学習。

2/5(月)命の学習②

心友(こと)助産の助産院さんに来ていただき、命の誕生について学ぶ。命を育む環境と親となることの営みについて学び、助産師として妊婦と出会い、妊娠・出産・育児と関わってこられた経験談を交え命の重み命を大切に生きる方を考える。

2/14(水)・15(木)「スロープ作成」プロジェクトの立ち上げ

校舎非常出口にスロープを作成するため、生徒に呼びかけを行い、作成チームを立ち上げる。その後、スロープの材料を購入し、組み立てる。

3/7(水)・8(木)スロープの上にじゅうたんを敷く。また以前、卒業生が作成した身障者用駐車スペースに描かれていたマークの再塗装、並びに新規身障者駐車スペースのマークの塗装。

(6) 期待される成果

◇「障がい」者を差別することばとして、「ガイジ」発言が小学校の頃から使われているという課題に向き合

- って、「障がい」者問題を自分たちの課題として理解できるようになる。
- ◇「障がい」を持つ人たちと関わり、共に生きていくためにはどうすればよいのかを考えられるようになる。
 - ◇生活と地域経済との関わりに気づき、職業調べや福祉・ボランティア学習を通して、「障がい」者問題・高齢者問題について考えるきっかけとする。
 - ◇学習を通し、かけがえのない命を大切にするとともに仲間を思いやる心を育てる。

